

祭

サイ

むかしのかみ

はやわかりとなまこと
祭だんに
肉をそなえた
祭りだよ



祭という字を分解してみよう。
月(夕)と又と示になるよ。月は肉

又(又)は手。示は神だな(つくえ)。

祭は、肉を、手で、神だなにそなえる形。そうやって神をまつることをあらわした字だ。

日本でも、お祭りには、いろいろなそなえものをするよ。

📌 11画

ノクダクダ双祭 祭祭祭

📌 11画

ひな祭り・夏祭り・祭日・祭礼・
祭典・文化祭・体育祭

皿

い

むかしのかみ

皿



皿は、「さら」の形からできた字。
むかしのかん字は、下に台がついて
いるように見えるね。

皿は、ひらたい「さら」のほかに、
水を入れるうつわや食器をあらわす形。

📌 むかしのかん字をくわへてみよう。

皿

📌 むしのなひたちは、66ページ!

皿の字は

おさを

みかひ

見たとこ

はやわかりとなまこと



習

わかしのかんず

おんま

シユウ

はらうじ じやうじやう

羽でうつわを

なんどもこすって

習いごと



習は、羽に白と書く。でも、もともとは、羽と習だった。

習は、うつわの口(口)に、いのりの文が入っている形。

習は、そのうつわを鳥の羽でなんどもこすって、いのりの力を強めることをあらわした字だ。

くりかえし、なんどもこするので、「くりかえす」「ならう」「なれる」といういみがある。なにかを習うときには、なんどもくりかえすからね。

11画

習習習習習習習習

習い事・見習い・習字・練習・学習

くぐり

あつまる(つどい)

集

おんま

シユウ

わかしのかんず

産産木

はらうじ じやうじやう

たくさん

とり(佳)が集まり

木にとまる



集は、「あつまる」といういみの字だ。佳は、「とり」だよ。

わかしのかんずを見てごらん。

木の上に「とり」が三羽とまっているね。かんずでは、同じ形を三つ書いて、「たくさんある(いる)」ことをあらわすんだ。

集は、たくさんのとりが、木に集まって、とまっているようすからできた字。

12画

集集集集集集集集

集い集い集い集い

人集め・集い・集合・集中・集会・集金・採集・文集・写真集・詩集

都 鄙

わかしのかんまろ

はやわかりとなまことば

ト・ツ

土手どてのなか

まよけをうめて

まもった都みやこ

都みやことは「みやこ」や「都市しよ」のこと。古代、人の多くすむまちは、土手どてでかこんでまもったのだという。そのかこいには、まよけの札ふしをうめた。それをあらわした字が、者しよ。(者しよのなりたちは、95ページにあるよ)

ⓑ (おおよこ)は、人のすむまちやむらをあらわす形。

都みやこは、土手どてでまもられた「みやこ」をあらわした字。

○かまじゅん 11画

一 ナムサ者者者都都

○HABERUS

花の都・都市・都会・都心・都立・都民・都庁・首都・都合・都度

度 度

わかしのかんまろ

ト

はやわかりとなまことば

しきものを

ひろげて

長さを

はかる度たびだ

度たびは、席せきをかんだんにした形と、手の形の又また(又また)をあわせた字。

むかし、儀式をおこなう場所に、しきものをしいて席せきをつくった。度たびは、手て(又また)で、そのしきものを広げることをあらわした形。

しきもの大きさをものさしにして、長さをはかったので、度たびは、「温度」 「角度」など、ものをはかる単位にわかれる。

○かまじゅん 9画

一 ナムサ者者者度度

○HABERUS

度数・度胸・速度・高度・分度器・今度・限度・年度・制度・態度

おそなえにした肉と酒

古代の中国では、祭りや儀式のときに、肉をおそなえにすることが多かった。だから、かん字には、肉の形をもつものがたくさんある。切った肉が、夕(多)や月の形になって、かん字のなかにかくれているよ。



肉



多



有



祭

示(示)は、神をまつるつくえ



あまさけ

禮 (禮)



福 (福)



酒

た儀式

お酒も、神さまへのそなえものにつかわれた。礼(禮)のなりたちは、あまさけをつかった儀式。福は、お酒をそなえてしあわせをいのること。酒の字のなかの酉や、福のなかの畠は、おさけを入れた「かめ」や「たる」の形。